

現行の改良目標に対する委員からの御意見と今後の方向性について
—めん羊—

(●：委員意見に対する方向性、○：事務局提案)

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
全般	① 生産者の優良事例を活用し、分かりやすく発信することで、めん羊の魅力を消費者につなげていくとよい。 ② 羊飼いは情報発信を上手くやっているため、さらに広めていければ、めん羊に対する価値観を消費者によく知ってもらえる。 ③ 改良は能力評価に基づき、近交等も考慮しながら進める必要があるが、めん羊は人工授精による受胎率も低く、改良に苦労している。 ④ 羊の繁殖に興味を持って研究を望む学生がいる一方、指導者がいない。 ⑤ 国では、酪農において環境負荷低減に係る取組を推進し、補助等も行われているが、めん羊の取組に対する支援がないと感じている。 ⑥ 乳用種、肉用種について、また、サフォーク種の純粋種が減少し交雑種が増えている中、どのように改良目標を立てるのかも検討すべき。	● めん羊の価値・魅力について、消費者への発信を図る旨を記述。 ● 引き続き、生産基盤が限られており飼養頭数の増加が難しいことを課題として記述。 ● めん羊の取組を後押しできるよう、研修等を通じた技術者育成に取り組む。
（乳用種の取り扱い）	① チーズ用としてめん羊乳を求める人達が増えており、これから乳用種が増えていくと考えられるので、乳用種に関する改良目標を入れていくべきではないか。	○ 乳用種の取扱いを検討する上で、どのような生産実態にあるのかを把握することが必要である旨を課題として記載。
（雑種の評価）	① ニュージーランドでは、交配された種の割合の表示が種羊の売買の参考情報になっているので、雑種を前提とした能力評価の手法も考えていかなければいけないのではないかと。	○ 優良な種畜の供給体制づくりを推進する中で、どのような手法によりデータを収集し、雑種の能力を評価・目標設定するか、引き続き、検討。

○ 能力に関する改良目標

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
産肉能力	① 現在の 90 日齢時体重は、濃厚飼料を給与したデータであり、粗飼料主体での飼養となったときに、この能力の目標数値をどうするかは考える必要がある。 ② 枝肉の歩留まりが高いことは経営安定にはよいが、質が落ちてしまうと売れなくなるため、歩留まりと質のバランスを工夫しながらやっている。 ③ 乳用種、肉用種について、また、サフォーク種の純粋種が減少し交雑種が増えている中、どのように改良目標を立てるのかも検討すべき。 【再掲】	● 収集できるデータに制約があることから、民間データも示しつつ、サフォーク種の目標値を設定。 ● 肉質を落とさず、枝肉歩留まりが高くなるよう、引き続き、適切な飼養・衛生管理に取り組む。
繁殖能力	① 1 腹当たりの離乳頭数のデータは年による振れがあるが、飼養管理の影響も大きいため、原因分析が重要。 ② 乳用種、肉用種について、また、サフォーク種の純粋種が減少し交雑種が増えている中、どのように改良目標を立てるのかも検討すべき。 【再掲】	● 母羊の適正な栄養管理等による生産性の向上が重要。

○ 体型に関する改良目標

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
体型	・ 特に意見なし	○ 前回と同様の記述でよいか確認。

○ 能力向上に資する取組

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
改良手法	① ニュージーランドやオーストラリアは改良が進んでおり能力評価も公表されているので、そういった先進国の情報を活用すれば効率的な改良が進められるのではないかと。	● 海外の種畜及び精液の活用にあたっては、公表されている能力評価を活用。
優良な種畜の確保	① ニュージーランドではサフォーク種は古い品種とされ、改良を止めているため、良い個体を輸入することが難しい。 ② 生産者は様々な考えの下、品種を選択しているため、民間では交雑種が増えているが、現有の種や精液をストックして純粋種を守ることをしなければならない。 ③ 過去にニュージーランドやオーストラリアから種畜として生体を輸入したが、全てが良い個体というわけでもなかったため、これらの国から種畜として輸入する個体についても、情報収集をする必要がある。 ④ 純粋種の維持は、公的な機関の役割と考える。	● 関係機関、生産者の協力の下、純粋種の維持に取り組み、優良な種畜の供給体制づくりを推進。 ● 海外の種畜及び精液の活用にあたっては、能力評価等を情報収集した上で、優良な種畜及び精液を利用。
家畜人工授精技術の活用	① 凍結精液による人工授精を行う場合、めん羊では難易度が高いという特殊な事情がある。 ② 人工授精の方法はいくつかあり、それぞれ受胎率等が異なるといった情報提供をしていく必要がある。 ③ ニュージーランドではサフォーク種は古い品種とされ、改良を止めているため、良い個体を輸入することが難しい。【再掲】 ④ 生産者は様々な考えの下、品種を選択しているため、民間では交雑種が増えているが、現有の種や精液をストックして純粋種を守ることをしなければならない。【再掲】	● 人工授精に関する利用者の理解醸成について記述。 ● 関係機関、生産者の協力の下、純粋種の維持に取り組み、優良な種畜の供給体制づくりを推進。【再掲】

飼養・衛生管理	① 寄生虫への対策については、遺伝的な抵抗性を踏まえた品種改良も検討すべき。 ② 飼養管理と遺伝的改良は車の両輪で、年間を通して栄養状態を上手にコントロールする飼養管理が重要であり、そこをもっと強調すべき。	● 寄生虫対策が効果的なものとなるよう、適切な飼養管理に努める旨を記述。
多様な利活用に関する情報共有	・特に意見なし。	○ 前回と同様の記載でよいか確認。

○ 増殖目標

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
増殖目標	① 近年、種畜の配布や売払いに対する問い合わせが多くなっており、関心の高まりを感じる。購入者のほとんどは北海道だが、本州や九州からの問い合わせも増えており、羊自体が手に入らなくて困っているのだと感じている。 ② 若い人でめん羊に興味のある人が増え、飼養を希望する人が増えているが、供給が追いつかず、裾野を広げられていない。 ③ 種畜以外に「種はないか」、「雌がほしい」といった問合せを受けており、関心は高まっているが、供給が足りていない。	● 繁殖用の種雄や雌を含め、需要に応じた頭数とすることを記述。

現行の改良目標に対する委員からの御意見と今後の方向性について
—山羊—

(●：委員意見に対する方向性、○：事務局提案)

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
全般	① 生産者の優良事例を活用し、分かりやすく発信することで、山羊の魅力を消費者につなげていくとよい。 ② と畜可能なと畜場が少なく、存在したとしても遠方、1日のと畜可能頭数制限があるなど課題が残る。	● 山羊の価値・魅力について、消費者への発信を図る旨を記述。 ● と畜場が少ないことは、引き続き課題として記載。なお、と畜の受入については、と畜場開設者や行政などの関係者間でよく調整することが必要。

○ 能力に関する改良目標

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
繁殖能力	① 現行の目標において、受胎率の向上と記載されているが、NLBC 長野支場では既に 75%前後で推移しており、さらに上昇させることは難しい。 ② 民間農家では、飼養管理による影響が大きく、高い農家で 50～60%の受胎率という感覚。	● 受胎率について、改良面では「向上」ではなく、「維持・向上」と記述するとともに、受胎率の向上の点で、適切な飼養管理が重要であることを記述。
乳成分及び乳量	① 乳量も大事だが、チーズ生産を目的としている人にとっては乳質も重要な要素。ペット用の乳も需要が増加している。 ② 乳成分を調べようとすると、自ら検査機関に依頼する必要がある、費用の面などから難しい。 ③ シバヤギは周年繁殖が可能なため、掛け合わせにより周年繁殖が可能な日本ザーネン種を増やすことで乳量を増やすということにつなげることも可能かと思うが、現場の需要を把握する必要がある。	● 乳量と乳成分のバランスに留意し、引き続き、乳量の向上とあわせ、乳成分の向上に努めることを記述。 ● 試験研究機関や他の畜種の関係者と連携して山羊乳の成分検査ができるか検討する旨を記述。

産肉能力	① 沖縄県では、大型化するよう改良を行うため、平均体重や枝肉重量の具体的な目標値を定めており、今後、どういう数値目標を設定するのが課題。 ② 需要に対しての供給が不足しているため、1 頭当たりの歩留まりを高める必要がある。	● 現状の把握可能なデータが限定的であり、国全体としての具体的な目標設定は困難。なお、引き続き、産肉能力に関連するデータの収集に取り組む。 ● 引き続き、歩留まりの向上に努めることを記述。
------	---	--

○ 体型に関する改良目標

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
体型	① 沖縄山羊では、肉量を増加させるため、体高に優れた山羊をベースに改良を推進している。	○ 前回と同様の記述でよい確認。

○ 能力向上に資する取組

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
改良手法	① 牧場内の近親交配をどうするかについて課題。 ② 肉用においては、様々な肉を求める人がいる中で間性の扱いも見直されているようだが、扱いをどうしていくかが課題。 ③ データを蓄積している民間の牧場もあるため、そういったデータを活用しながら改良を進めるのが良いのではないかな。	● 血統登録情報を活用した近親交配の回避に引き続き取り組む。 ● 間性について、肉用で好まれている実態があるものの、不良形質として、引き続き、配慮が必要。
優良な種畜の確保	・ 特に意見なし	○ 前回と同様の記述でよい確認。
家畜人工授精技術の活用	・ 特に意見なし	○ 前回と同様の記述でよい確認。

飼養・衛生管理	① 民間農家では、飼養管理による影響が大きく、高い農家で 50～60%の受胎率という感覚。【再掲】 ② 飼養管理は改良との両輪であり、寄生虫の対策においても重要な要素であるため、飼養管理の重要性について強調すべき。 ③ 特に、除草目的での飼養の場合、飼養衛生管理基準を遵守できていないと思われる飼養者もあり、制度の周知等が必要。 ④ 地域によっては、山羊関節炎・脳炎（CAE）が残っていることも課題。	● 受胎率向上や寄生虫対策の観点も含め、適切な飼養管理が重要であることを記述。【一部再掲】
多様な利活用に関する情報共有	① 特に、除草目的での飼養の場合、飼養衛生管理基準を遵守できていないと思われる飼養者もあり、制度の周知等が必要。【再掲】 ② ふれあいや展示を行っている人で、動物取扱業者の登録を行っているか不明な人もいる。	● 動物取扱に関する法制度の周知・徹底に努める旨を記述。

○ 増殖目標

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
増殖目標	① 山羊の入札価格の高騰や山羊乳への問合せの増加から関心の高まりを認識しているが、データが少なく、どのくらい生産・供給すべきかが悩み。	● 関心が高まっていることを記述。